



(こども版) としょかんだより No.277

2007年

4月号

# わくわく本だな

富山市立図書館

## 今月のおすすめ



= 1・2年  
= 3・4年  
= 5・6年

- あたらしくはいった本の中から、おすすめの本をしょうかいします -

### 「お姫さまのアリの巣たんけん」(ちしきの本)

秋山 あゆ子 / 作 福音館書店

虫が大好きなお姫さまと5人の友だちが、アリの巣をぼうで  
つつきました。すると、中から仙人がとびだしてきて、お姫さま  
たちを小さくします。アリの巣の中に入っていくと、そこには  
女王アリがいて、食べ物をたくわえる部屋がありました。



### 「おまけのじかん」 あまん きみこ / 作 ポプラ社



今日はいもうとのマミちゃんのたんじょうび。でも、おかあさんの  
しごとのつごうで、たんじょうかいは明日にえんきになってしま  
いました。なきだしたマミちゃんに、おねえちゃんは「おいわいの  
“ぜんやさい”をしてあげる」といいました。

### 「タヌキ御殿の大そうどう 内科・オバケ科ホオズキ医院」

富安 陽子 / 作 ポプラ社

恭平は、うっかりオバケの世界に迷いこんでしまい、  
化け術の達人・金長ダヌキとまちがわれます。体中が  
シマシマになったタヌキを治すようにたのまれて困っていると、  
オバケ科の専門医・鬼灯京十郎先生が回診にやってきました。



# あたらしくはいった本

えほん

「ふってきました」 もとした いづみ / 作 講談社



つるこちゃんが、お母さんにあげるお花をつんでいると、空から大きなわにがふってきました。つるこちゃんは、びっくり！お花はばらばらになってしまいます。おわびに、わにがお花をつむのをてつだってくれました。

すると、こんどは、空からぞうがふってきました。



ものがたり

「うたのすきなかえるくん」 かこ さとし / 作 PHP研究所

かえるくんは、びょうきのかえるちゃんのために、毎日、くすりとたべものをもっておみまいに行きました。でも、びんぼうなかえるくんは、だんだんお金がなくなってこまってしまいます。

ある日、しごとをさがしていると、黒い服、黒いメガネのうしがえるに「いいしごとがあるよ」とさそわれました。

## ともだち だ～れだ？

おはなしの主人公あてクイズ

ぼくのクラス1ねん1くみのともだちをあててね。  
あたまはいつもボサボサ。いたずらずきで元気いっぱい。  
ちょっとらんぼうだから、よわむしのぼくは  
いつもなかされちゃう。

でも、すこしだけうらやましいときもあるんだよ。

ほんとうはさびしがりの男の子のなまえ、わかるかな？



(こたえは、さいごのページにのっています)

## ものがたり



「茶づつの中は笑いがいっぱい」 石橋 ちえこ / 作 新風舎

のんのばあさまは、ひろった赤い茶づつにエンドウ豆をいれておきました。あるとき、茶づつが大きくなっていくのに気づきました。まごのケン太といっしょにふたをあけてみると、中に入れた豆がピンポン玉くらいの大きさになっていました。

「お江戸のかぐや姫 銀太捕物帳」 那須 正幹 / 作 岩崎書店



ロウソク問屋の娘、お秀が「十五夜に月へ帰ります」と言い出し、まわりは大騒ぎになります。銀太の父で岡っ引きの千次も、十五夜にはとまりこんで見はりますが、お秀はいなくなっていました。次の日の朝、庭で植木屋の繁二郎が死体で発見されました。

「大きなウサギを送るには」  
ブルクハルト・シュピネン / 作 徳間書店



引っこしてきたばかりのコンラートは、気の強い女の子フリッツと出会いました。フリッツの家には、大きなウサギがいます。出て行ったお父さんが残していったのです。フリッツは動物の毛のアレルギーを持つお父さんの恋人に、いやがらせでウサギを送りつけることを計画し、コンラートは手伝うはめになりました。



## ちしきの本

「日本の大切なもの 見て知る13の世界遺産」 PHP 研究所

日本の世界遺産は、2006年現在、いくつあるか知っていますか？文化遺産が10ヶ所、自然遺産が3ヶ所あります。どれも貴重なものばかりで、これからも守りつづけ、残していかなければならない“日本の大切な宝物”です。この本では、写真や立体的な地図などを使ってわかりやすく解説しています。

名作をよもう！

今月の1さつ

## 「おしいれのぼうけん」

ふるた たるひ、たばた せいいち / 作 童心社



さくら<sup>ほいくえん</sup>保育園には、こわいものが二つあります。一つはおしいれ。  
もう一つは、人形劇<sup>にんぎょうげき</sup>のねずみばあさんです。

ある日、さととあきはミニカーのとりあい<sup>とりあい</sup>でけんかをして、  
おしいれにとじこめられてしまいました。そこにねずみばあさんが<sup>あらわ</sup>現れて…。  
ふたりの大冒険<sup>だいぼうけん</sup>がはじまりました。

## れきし じんぶつしょうかい



### 第1回 < アンデルセン >

生年月日 1805年4月2日  
出身地 デンマーク

まずしいくつ職人<sup>しよくにん</sup>の子に生まれたアンデルセンは、俳優<sup>はいゆう</sup>や音楽家<sup>おんがくか</sup>をめざしますがうまくいきませんでした。しだいに、芝居<sup>しばい</sup>の本<sup>ほん</sup>や詩集<sup>ししゅう</sup>、おとぎ話<sup>おとぎわ</sup>などを書くようになります。みんなもよく知っている「マッチ売りの少女<sup>まっちうりのしょうにょ</sup>」「はだかの王さま<sup>はだかのおうさま</sup>」「人魚姫<sup>にんぎょひめ</sup>」「みにくいあひるの子<sup>みにくいあひるのこ</sup>」「雪の女王<sup>ゆきのじやう</sup>」など多くの作品を残しました。



クイズのこたえ

ともだちの名前は“くろさわくん”です。

「1ねん1くみ1ばんワル」から

「1ねん1くみ1ばんあったか~い」まで、

このシリーズは20冊出ています。

読んでみてね。(後藤 竜二 / 作 ポプラ社)



< 編集・発行 >

富山市立図書館

富山市丸の内1丁目4-50

電話 076-432-7272